

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信濃大町 山の100年「百瀬慎太郎と山案内人たち」事業
事業主体 (連絡先)	大町登山案内人組合創立100周年記念事業実行委員会 《大町市産業観光部観光課内 0261-22-0420 (内線 561)》
事業区分	6ア 特色ある観光地づくり 3教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	8,365,613円 (うち支援金: 2,999,000円)

事業内容

- ①100周年プレミアムツアー事業⇒5 ツアー募集中2 ツアー実施
- ②モニターツアー事業⇒2組(4名)3泊4日 裏銀座
- ③地元小学生・中学生のためのクライミング&スラックライン教室⇒8/6(日) 県人口岩場周辺 地元小中学生31人参加
- ④信濃大町山フェス「北アルプス100年祭」⇒9/30(土)~10/1(日) 大町市文化会館一帯ほか 来場者:4,500人(2日間)
- ⑤山岳学生サミット&テント泊体験と山談義イベント⇒山フェスと同日開催。学生サミット:県内5高等学校山岳部関係、信州大学山岳部、日本山岳会学生部参加。テント泊&山談義:一般10人+信州大学山岳部・日本山岳会学生部参加。
- ⑥湯俣トレッキング事業⇒10/1(日)参加者31人
- ⑦その他事業(イベント出典、信濃大町登山案内ガイドの作成)⇒夏山フェスタ・モンベルフェアでの出典PR、登山ガイドの作成30,000部
- ⑧記念式典⇒11/17(金) 大町温泉郷「黒部観光ホテル」参加者:約90人(同日、大町市観光大使 平林克敏氏記念講演会及び祝賀会を開催)



【信濃大町 山フェス
北アルプス100年祭】

【目標・ねらい】

- ①大町市登山案内人組合の認知度向上
- ②岳都「大町市」の認知度向上
- ③市民への山の恩恵の再認識
- ④安全登山の普及・啓発

事業効果

- ① 大町登山案内人組合の認知度向上
日本初の山岳ガイド組織をはじめ、登山道整備、山岳環境保全、県山岳遭難防止対策協会の一員であることも含めて周知が図れた。
- ② 岳都「大町市」の認知度向上
北の白岳・五龍岳から南の槍ヶ岳頂上まで、全国屈指の広大な大町市の山域について各種事業を通じてPRが図れた。
- ③ 市民への山の恩恵の再認識
様々な事業を通じて、山の素晴らしさや恩恵について市民が再認識する機会となった。また、地元小・中学生に対する「山岳」への理解と関心を高められた。
- ④ 安全登山の普及・啓発
登山案内人の役割、大町市エリアの登山口・登山道紹介や登山時の心得を盛り込んだ「登山ガイド」を作成し、安全登山の普及・啓発が図れた。(関係施設やイベント出典時などで配布)
山フェス当日にも登山相談所を開設し、普及・啓発が図れた。

※自己評価【A】

【理由】

様々な事業を通じて、登山案内人組合、山岳都市「大町市」の情報発信や認知度向上が図れたほか安全登山の普及・啓発も合わせて図れた。また、メイン事業である、「信濃大町山フェス」では、山の次世代を担う若者が運営に携わったほか、来場者も2日間で4,500人と当初の予定を大幅に上回ったため。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年は、全国初の登山ガイド組織「大町登山案内人組合」の創立100周年という節目の年であったため、登山案内人の歴史的背景をはじめ、当山域の全国に向けたPR(特に、裏銀座に着目)や地元住民が山の恵みを再認識・理解する機会としたほか、コアな山岳関係者も楽しめる事業・イベントを実施してきた。

今回の取り組みを契機に、今後もあらゆる機会を通じて、岳都「大町市」を全国に発信していくとともに、「山フェス」と言ったら「大町市」とイメージしていただけるような事業を展開し、山岳観光の振興を図っていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある